

人とペットが作る笑顔あふれる社会のために

## マース ジャパン News Letter

January 2008

### 「泥棒は犬が苦手」

マースは、オーストラリアでコンパニオンアニマルに関わるリサーチやプログラムを推進している団体、PIAS をサポートしています。同団体が毎年実施している「The National People and Pet Survey」(人とペットの共生に関する調査)を行ったところ、88%のドッグオーナーが、「犬を飼うことで泥棒被害を低減させる効果がある」と考えていることがわかりました。確かに日本でも、「番犬」という防犯を前提とした犬の役割を示す言葉があり、かつてはこれが犬を飼う主な理由の一つに挙げられた時代がありました。今や、この理由が上位になることはないものの、この意見に同意する日本人も多いのではないのでしょうか。

この報告の中で非常に興味深い点は、オーストラリアの主要な保険会社が同じ考えを示したということです。その一つ、オーストラリアの保険会社 GIO で個人保険の責任者をしているリンデル・フレイザー氏は、「泥棒から被害を受けるのを最小限にする対策はいくつもあります。防犯システムの設置などが主ですが、犬を飼うことも対策の一つとして挙げる事が出来ます。過去の事例からみても、泥棒が犬のいる家をターゲットにしにくいことは明らかです」とコメントしています。愛らしいコンパニオンアニマルも泥棒にとっては面倒な存在ということでしょう。オーストラリアでは、25 万件以上の家庭が一年間に最低一回は泥棒の被害にあったことがあり、未遂も同数程度あるといわれています。(オーストラリア統計局調べ) もしかしたら近い将来、防犯訓練を修了した犬を飼育している家庭には家財保険料の割引をといった優遇が登場するかもしれません。

古くは名犬ラッシーなど、賢くて、勇敢で、俊敏な犬や動物たちが悪者退治に大活躍したり、人を事故から守り、救助したりする映画やドラマはいつも人気を博します。こうした実話もたくさん伝えられており、それらの動物の一生懸命な姿に私たちは感動し、動物たちが持つすばらしい能力と深い愛情を再発見して驚かされます。

このリサーチに携わった PIAS のスージー・チャセリンは、次のようにコメントしています。「犬は、彼らが自分の家族やその家族のものだと認識している場所を守ろうとするものです。オーナーが適切なしつけやケアを心得、愛情を持って接していれば、犬はオーナーに対して深い忠誠心と愛情を持ち、安全を確保する手伝いをしてくれるのです。さらに、多くのペットオーナーは、犬が防犯システム以上にもっとすばらしい、心の安らぎを与えてくれていると認識しています」。

\*\*\*

マース ジャパン リミテッドは、製品や社会貢献活動を通して、人とペットが共に暮らす 笑顔あふれる社会の実現を目指しています。このニュースレターは、マースが人とペットの共生をテーマにした研究や支援活動を目的に 1997 年に設立したリサーチセンターである非営利団体 CAIRC とマース オーストラリアがサポートするコンパニオンアニマルに関わる活動を推進している PIAS と協力して発行しています。